

明日の大地

北海道新篠津高等養護学校

学校だより第1号

令和5年4月28日発行

Tel 0126-58-3280

HP <http://www.shinko.hokkaido-c.ed.jp/>

わが村の高等養護学校をめざして

北海道新篠津高等養護学校 立田 俊治

この度、第12代校長として着任しました、立田 俊治（たつた としはる）です。よろしくお願い申し上げます。

この度の巻頭言は、私自身も本校を理解するために、今一度、開校からの軌跡を振り返って見たいと思ひまして筆を執っております。

本校は、平成5年（1993年）4月に、道民や保護者の熱い期待の中、従来の高等養護学校が対象としていた障害の比較的軽い生徒を対象とする学科と共に障害の重い生徒を対象とする学科を設置した北海道では最初の高等養護学校として開校いたしました。平成5～6年度は、旧札幌聾学校校舎（札幌市）を仮校舎としておりましたが、平成7年4月より、晴れて新篠津村の現校舎に移転しまして、本年度で開校31年目を迎えます。昨年度は、新篠津村を始めとしまして、関係の皆様の御協力により開校30周年事業を執り行えたことに感謝を申し上げます。



平成5年度には2学科（産業科、生活家庭科）で開校しましたが、平成7年度の新校舎への移転に伴い5学科の設置となりました。その後、平成20年度からは高等養護学校への進学希望者の増減により、学科の設置数も増減しましたが、現在は6学科（園芸科、生産技術科、窯業科、木工科、家庭総合科、クリーニング科）の設置となっております。

高等養護学校では、将来の社会生活及び職業生活に役立つ内容を中心に学び、卒業後の働く生活にスムーズに移行することを目的としております。そのため、各学科では「職業教科に関する専門教科」を中心に学ぶことにより、働く力・生活する力を身に付け、生きる力を総合的に育成しております。

とりわけ、校外における現場実習では、新篠津村の企業等及び福祉事業所を中心に多大なる御協力を得て、教育活動を実施しております。また、村内道路沿いに園芸科が育てた花壇用草花を定植させていただいたり、村役場などに生産技術科で焙煎したコーヒーを御購入いただいたり、村民行事であります「青空まつり」へ生徒が参加させていただくなど、新篠津村の皆様には物心両面から本校の教育活動について御支援と御協力をいただいておりますことに、心より感謝を申し上げます。

結びとなりますが、今後とも、新篠津村の皆様と協同しながら、働くことを中心とした特色ある教育活動を推進しますので、関係の皆様からのお力添えの程をよろしくお願いいたします。

入学式

時折、暖かな日差しが差し込む春の日、第31回入学式が挙行されました。40名の新入生が入学を許可され、新篠津高等養護学校の生徒として一步を踏み出しました。呼名とともに返事をして起立するなど、一つ一つ丁寧な所作で最後まで式に臨みました。また、新入生代表の斉藤龍牙さんは「今日から始まる一日一日を大切にしながら、社会人として学校を巣立つ日まで、自分自身のペースでしっかりと歩いていきます」と堂々とした挨拶をしてくれました。その言葉を胸に刻み、新篠津高等養護学校31回生が前向きに歩んでくれることを期待しています。



今年度も多くの新入生が寄宿舎生活を始め、清掃などの活動を意欲的に行う生徒がいたり、大きな環境の変化から寂しい様子を見せたりしていた生徒がいました。また、通学生も慣れない公共交通機関を利用して、緊張しながら登校したのではないのでしょうか。この数日間の不安や緊張を乗り越えることで、ひとつ成長できている生徒の姿を感じています。これから、様々な経験を積んで葛藤を乗り越えながら、「社会人として巣立つ日まで」成長していく時間を共に過ごしていきたいと思います。

1学年主任



図書室より

本を読むことによって、たくさんの言葉（ことば）に触れることで自分の伝えたいことをわかりやすく伝えたり、自分で書いた文を書く力や表現する力が豊かになるかもしれません。
たくさんの本をたくさん取りそろえて、お待ちしております！

